

外為マンスリービューⅢ 南半球編

先月までの為替相場のレビューと、  
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2016/09/01

米9月利上げの可能性を窺いつつ

通貨ペア	基調		ページ数
<a href="#">豪ドル/円</a>	➡	主体性に乏しい値動き 予想レンジ: 74.000 ~ 81.000 円	2 - 3
<a href="#">NZドル/円</a>	➡	利下げ期待は再燃するか 予想レンジ: 72.500 ~ 77.000 円	4 - 5
<a href="#">ランド/円</a>	↘	悪材料に敏感に反応 予想レンジ: 6.300 ~ 7.500 円	6 - 7

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

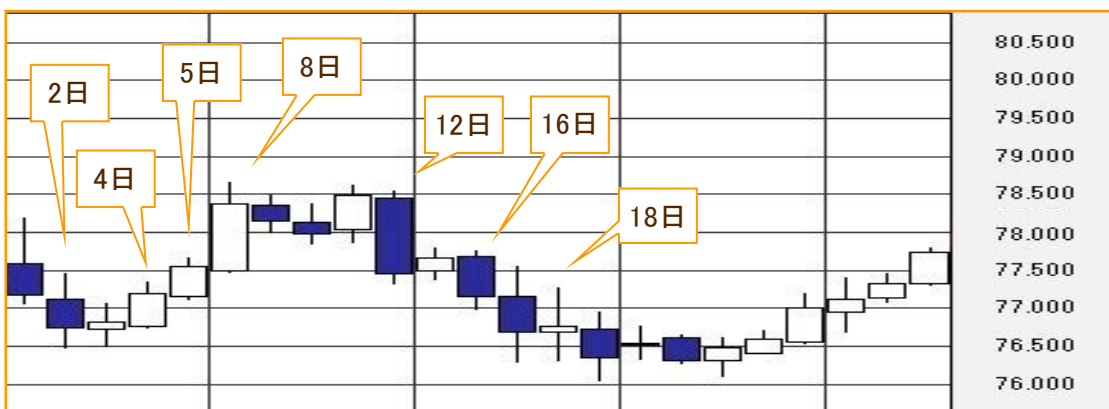
Copyright©2016 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

## 豪ドル/円 8月の推移

AUD/JPY

8月の豪ドル/円相場は76.065～78.670円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約0.2%とわずかに上昇(豪ドル高・円安)した。

月初、豪中銀(RBA)は市場の大方の予想通り利下げを発表したものの、追加利下げへの示唆がなかった。また、RBAの四半期インフレ報告の中でも見通しの変更や目新しい記述はなかった。そのため、独自に動く材料に欠ける状態で、さらに8月は夏季休暇入りする市場参加者が非常に多く、積極的に取引をする気運が高まりにくかったことから、1カ月を通して小幅な値動きに留まった。



## 四本値

OPEN	77.599
HIGH	78.670
LOW	76.065
CLOSE	77.749

2日	RBAは予想通り0.25%の利下げを発表。声明文では「インフレ率が目標に戻るための道筋は利下げで改善」「利下げによって持続的成長の見通しは改善」「豪国内では、企業投資のかなり大幅な落ち込みにも関わらず、全体的に緩やかなペースの成長が続いている」「労働指標はマチマチ」「豪ドル高は経済的な調整を複雑にする恐れ」とした。発表直後の豪ドル/円は76.707円まで急落したが、追加利下げへ向けた示唆が無かったことから豪ドル買い優勢に転じた。ただし、その後に麻生財務相が「50年債という発想はない」と発言すると円高が進行。原油安も重石となり、反落した。
4日	豪6月小売売上高は前月比+0.1%と予想(+0.3%)を下回った事で一時下げたが、その後反発。岩田日銀副総裁が「総括的検証は物価2%目標の早期達成のために行うもので、量・質を減らすという金融引き締めは考えられない」と述べた事も追い風となった。
5日	RBAは四半期金融政策報告にて、基調インフレ率見通しを2016年末時点で+1.50%、2017年末時点で+1.50～+2.50%と、前回(5月)の判断を据え置いた。また、「基調インフレ率は2%以下で推移し、2%達成は2018年末の見通し」「インフレおよび成長率見通しの不透明要因として、豪ドルレートは引き続き大きい」「インフレ及び成長率見通しはほぼ変化なし」「英国の欧州連合(EU)離脱の主要貿易相手国への影響は限定的」などとした。見解や見通しに目新しい変化がなかったことから、豪ドルの反応は限定的。その後、米7月雇用統計の良好な結果を受けたドル/円の上昇に豪ドル/円は連れ高した。
8日	中国7月貿易収支は523.1億ドルの黒字と予想(473.0億ドルの黒字)を上回るも、輸出は前年比-4.4%(予想:-3.5%)、輸入は-12.5%(同:-7.0%)と内容が弱く、豪ドルは一時売り優勢となった。しかしその後、石油輸出国機構(OPEC)加盟国と非加盟国が9月に会合を開催するとの発表を受けて、石油の生産調整期待からNY原油が上昇。豪ドル/円も上昇した。
12日	中国7月鉱工業生産が前年比+6.0%(予想:+6.2%)、7月小売売上高は前年比+10.2%(同:+10.5%)と市場予想を双方下回ると豪ドルは売りで反応したが、一時的。NY市場に入り、米7月小売売上高、米7月生産者物価指数、米8月ミシガン大消費者信頼感指数が軒並み弱い結果となり、米国株が下落すると、豪ドル/円は値を下げた。
16日	RBA議事録では「成長とインフレ見通しは利下げによって改善」「インフレが当面低水準に留まる事を考慮すれば成長が加速する余地がある」などとあった。近い将来の利下げについて踏み込んだ言及がなく、発表直後の豪ドルは小幅に上昇。だが、その後は日本株安などが重石となって失速した。
18日	豪7月雇用統計は雇用者数が2.62万人増(予想:1.00万人増)、失業率は5.7%(同:5.8%)と良好な結果で豪ドル/円は一時上昇したものの、内容は正規雇用が4.54万人減、非常勤雇用が7.16万人増と良いものではなかったことから、77円台前半で頭打ち。その後、NYダウ平均の冴えない動きを眺めて、頭の重い推移となった。

AUD/JPY

## 日経平均

OPEN	16415.31
HIGH	16943.67
LOW	15921.04
CLOSE	16887.40

## NYダウ平均

OPEN	18434.50
HIGH	18668.44
LOW	18247.79
CLOSE	18400.88

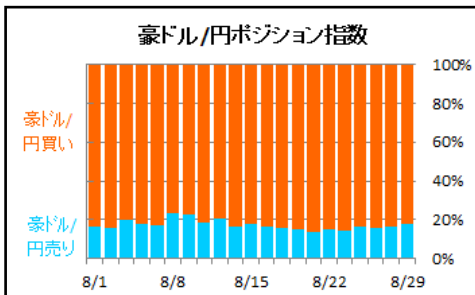
## 上海総合指数

OPEN	2971.949
HIGH	3140.441
LOW	2931.963
CLOSE	3085.491

## 豪10年債利回

OPEN	1.874%
HIGH	1.972%
LOW	1.811%
CLOSE	1.824%

## 8月のポジション動向



## 9月の豪州・中国の注目イベント

- ・8月中国財新/製造業PMI(1日)
- ・7月豪小売売上高(1日)
- ・RBAキャシュターゲット(6日)
- ・4-6月豪GDP(7日)
- ・8月中国貿易収支(8日)
- ・7月豪貿易収支(8日)
- ・8月中国消費者物価指数(9日)
- ・8月中国鉱工業生産(13日)
- ・8月中国小売売上高(13日)
- ・8月豪雇用統計(15日)
- ・RBA議事録(20日)

## 9月の見通し

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

RBAは8月の利下げを決定し、この利下げによってインフレや経済見通しは改善するとした。「改善」するのであれば即座の追加緩和は必要ではなく、実際にそれを確認するには時間が掛かると考えると、RBAは当面、金融政策を据え置く公算が大きいと言えよう。そうすると、豪州の経済指標に対する豪ドルの反応はこれまでよりも小さなものに留まる可能性が高い。また、豪州の最大貿易相手国・中国に関しても、最近はその経済動向に関する市場の関心度が低下しており、豪ドル/円への中国経済指標や株価などは、かなり限られる状況にあると見る。こうした中で、当面の豪ドル/円は主要国株価や国際商品価格、また円主導の動きとなるだろう。足元の市場の関心は米国の9月利上げの有無に集まっており、米国の各種経済指標結果や要人発言などを受けて主要国株価や国際商品価格がどう動くか、また、豪ドル/米ドルやドル/円がどのように推移するか注目したい。(石川)

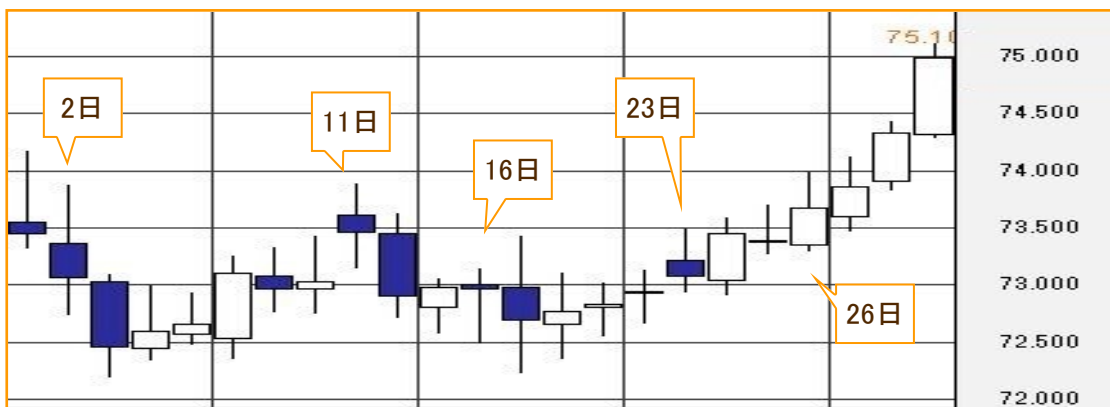
(予想レンジ: 74.000~81.000円)

## NZドル/円 8月の推移

NZD/JPY

8月のNZドル/円相場は72.213~75.109円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約1.9%の上昇(NZドル高・円安)となった。

8月は市場参加者が夏休み入りし、全般的に手控えムードが強く、値動きは小幅なものに留まった。独自材料に関しても、NZ中銀(RBNZ)は利下げを発表した上で、今後の利下げについても示唆はしたものの、今後の下げ幅に関する見通しが市場の期待(50bp)に届いておらず、NZドルを積極的に売る流れにはならなかった。下旬に入ると、米国の9月利上げ観測が台頭し、ドル/円が上昇。NZドル/米ドルは下落したが、ドル/円の上昇幅の方が大きかった事から、NZドル/円はドル/円に連れ高する格好になった。



## 四本値

OPEN	73.556
HIGH	75.109
LOW	72.213
CLOSE	74.984

2日	麻生財務相が「国債の市中発行額を維持し、40年債増発に理解を求めた」「50年債という発想はない」と発言し、円買いが強まると、NZドル/円は下落。さらに、原油の供給過剰懸念が根強い中でNY原油先物が失速すると、資源国通貨が全般的に値を下げ、NZドル/円も下値を切り下げた。なお、NZ乳業大手フォンテラが電子入札GDTを行い、物価指数は前回比+6.6%となったが、NZドルはほとんど反応しなかった。
11日	RBNZは政策金利を2.25%から2.00%へ引き下げる事を発表した。また声明文では「更なる追加緩和が必要となる可能性がある」「NZドルの下落が必要な可能性」などとした。ただ、利下げ自体がほとんど織り込まれていた上、ウィーラーRBNZ総裁が「50bpの利下げが正当だとは考えなかった」などとコメントし、大幅な利下げを考慮していなかった点が明らかになった事からNZドルは73.893円まで上昇した。なお、マクダーモットRBNZ総裁補佐は「NZドルが見通しより上昇すれば、追加利下げのリスクは増す」「為替レートは重要な懸念」などとコメントした。
16日	フォンテラのGDT物価指数が前回比+12.7%となった事を受けてNZドルは小幅に買われたものの、反応は一時的だった。
23日	ウィーラーNZ中銀総裁が政策金利の見通しについて、現在から35bpの追加利下げを見込んでいるとコメント。これは市場の想定よりも小さいと受け止められ、NZドルは朝方に小幅に上昇する場面も見られた。
26日	ジャクソンホール・シンポジウムにて、米連邦準備制度理事会(FRB)のイエレン議長が「利上げの根拠がこの数カ月で強まった」と述べた事を受け、フィッシャーFRB副議長が「8月雇用統計が米連邦公開市場委員会(FOMC)の決定に影響へ」「イエレンFRB議長の発言は9月利上げの可能性と整合」などとコメントした事で9月利上げが急速に意識され、ドル高が進行。ドル/円が上昇した事にNZドル/円は連れ高となった。



## NZD/JPY

## 日経平均

OPEN	16415.31
HIGH	16943.67
LOW	15921.04
CLOSE	16887.40

## NYダウ平均

OPEN	18434.50
HIGH	18668.44
LOW	18247.79
CLOSE	18400.88

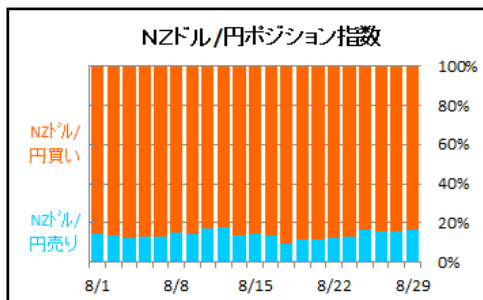
## 上海総合指数

OPEN	2971.949
HIGH	3140.441
LOW	2931.963
CLOSE	3085.491

## NZ10年債利回

OPEN	2.178%
HIGH	2.302%
LOW	2.114%
CLOSE	2.238%

## 8月のポジション動向



## 9月のNZの注目イベント

- ・NZフォンテラ入札(6日、20日)
- ・4-6月期NZ経常収支(14日)
- ・4-6月期NZ・GDP(15日)
- ・RBNZオフィシャル・キャッシュレート(21日)
- ・8月NZ貿易収支(25日)
- ・8月NZ住宅建設許可(30日)

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

## 9月の見通し

8月、RBNZが利下げを決定した時に、決定された利下げ幅以上の金利引き下げを「検討していなかった事」や、今後の利下げ見通しの幅が期待よりも狭かった点を受けて、同じオセアニア通貨の豪ドルよりも力強い推移となった。しかし、RBNZは依然として次の一手を「利下げ」としている状況には変わりはない。月初の段階ではほとんどのエコノミストが9月21日のRBNZの理事会では政策金利を据え置くと見ているが、次回(11月9日)の理事会での利下げの可能性を示唆するような場合には、再びNZドル売りが強まるものと考えられる。

ただし、足元の外国為替市場全体の関心は米国の9月利上げの可能性に集中している。NZ国内の材料よりも9月21日の米連邦公開市場委員会(FOMC)へ向けた各種経済イベントの方が、NZドル相場にとっても重要になってくる公算だ。まずは、2日発表の米8月雇用統計の結果がFOMCの決定に重要な影響を与えると見られている。結果が市場予想以上に良好となれば、①円とNZドルのどちらが対米ドルでより弱いのか、②利上げの可能性を株式市場がどう捉えているか、などによってNZドル/円は動くものと考えられる。②に関しては、9月利上げを「米国の経済が利上げが再開できるほど好調である」と市場が受け止めれば株高→NZドル/円には追い風、という値動きが予想される一方、教科書通りに「利上げは株には重石」と市場が受け止めて株が下落すればNZドル/円には重石となる見通し。もちろん、米雇用統計が弱い結果となり、9月利上げ観測が雲散霧消した場合も、①対米ドルでNZドルと円のどちらがより買われるか、①9月利上げの可能性が消えた事を株式市場がどう捉えるかが重要になる。NZドルはかなり神経質な値動きとなりそうだ。(石川)

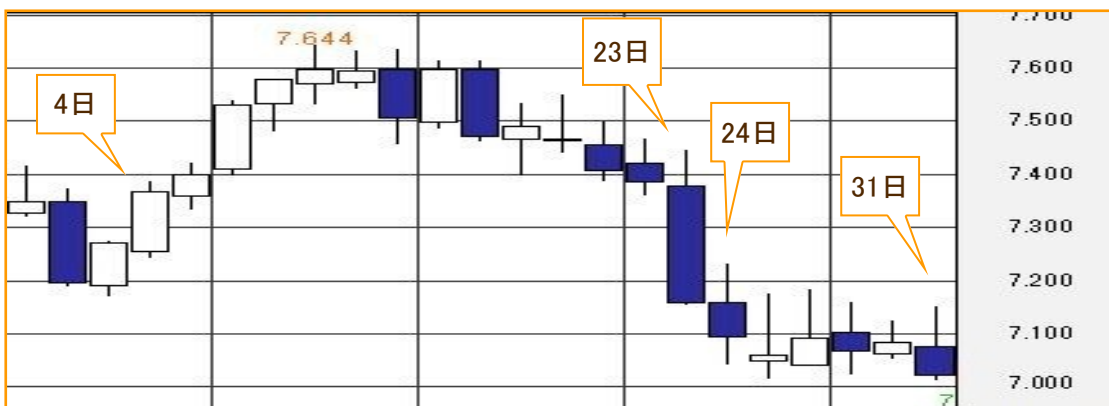
(予想レンジ: 72.500~77.000円)

ZAR/JPY

## ランド/円 8月の推移

8月のランド/円相場は、7.016～7.644円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約4.3%の下落(ランド安・円高)の推移となった。

月初の地方選挙で与党・アフリカ民族会議(ANC)の得票率が前回選挙よりも低下したことから、経済政策に見直しが入るのではとの期待があり、ランド/円は4月以来の高値である7.644円まで上昇。しかし、その後はゴードン・南ア財務相に対して警察当局が出頭命令を出し、これを財務相が拒否するなど、政局混迷不安が強まる中で失速した。さらに31日、こうした政治的混乱などを理由に南ア最大の民間債券運用会社が国営企業大手6社に対する融資を停止した事を受けて下値を切り下げた。



### 四本値

OPEN	7.330
HIGH	7.644
LOW	7.016
CLOSE	7.024

4日	3日に行われた南ア地方選において与党のアフリカ民族会議(ANC)が勝利したものの、得票率は53.8%と2011年の地方選の時(約62%)から勢力が減退。これを受けて南アの経済政策に見直しが入るのではとの期待から、ランド/円は上昇した。
23日	南アではゴードン財務相が警察当局から出頭命令を受けたと報じられた事を受け、財務大臣の交代懸念が強まり、ランド/円は急落した。
24日	前日からのランド売りの流れを引き継いだ上、南アのゴードン財務相が警察の出頭命令を拒否し、「弁護士から助言を受けている」「差し迫った容疑はない」などとコメントした事で、政局混迷不安が強まり、7.044円まで値を下げた。なお、南ア7月消費者物価指数は前年比+6.0%と市場予想(+6.1%)を下回ったが、ランド/円に目立った反応は見られなかった。
31日	南ア7月貿易収支は52億ランドの黒字と予想(80億ランドの黒字)を下回ったが、ランドの反応は見られなかった。しかし、南アフリカ最大の民間債券運用会社フューチャーグロース・アセット・マネジメントが、企業の運営方法や政府の内紛、財務省の独立性に対する脅威を理由に、国営企業の大手6社(電力会社エスコム・ホールディングス、南ア国家道路公社、南ア土地農業開発銀行、南ア産業開発公社、南部アフリカ開発銀行)への融資を停止する事を発表。これを受けてランドは急落し、ランド/円は7.016円の安値を付けた。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

## 日経平均

OPEN	16415.31
HIGH	16943.67
LOW	15921.04
CLOSE	16887.40

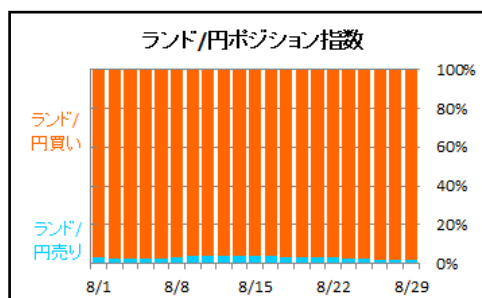
## NYダウ平均

OPEN	18434.50
HIGH	18668.44
LOW	18247.79
CLOSE	18400.88

## N Y 金

OPEN	1357.20
HIGH	1374.20
LOW	1306.90
CLOSE	1311.40

## 8月のポジション動向



## 9月の南アフリカの注目イベント

- ・4-6月期南アGDP(6日)
- ・4-6月期南ア経常収支(13日)
- ・7月南ア小売売上高(14日)
- ・8月南ア消費者物価指数(21日)
- ・8月南ア生産者物価指数(29日)
- ・8月南ア貿易収支(30日)

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

## 9月の見通し

8月のランド/円は月初こそ、南ア地方選における与党ANCの勢力減退を好感した上昇が見られたものの、下旬に入るとゴードン財務相の警察出頭問題を背景とする政局不安などを受けて反落した。ゴードン財務相は昨年12月に2人の財務相が相次いで辞任させられた後に就任し、南アの緊縮財政を進めてきた財務相なだけに、もし更迭されるとなると、南アの緊縮財政にマイナスと見られ、ランドには下押し要因となった。出頭命令の理由は歳入庁長官時代に違法なスパイ組織を立ち上げた疑いだったが、同財務相は出頭を「法的に従う義務はない」として拒否するなど、警察に対して対決姿勢を示している。ANC内部では、ゴードン氏に対する処遇でもめており、9月も関連報道によってランドが動く場面が出てこよう。ただし、「ゴードン財務相の疑いが晴れる」というもの以外の材料は、基本的に政局混迷や財政政策の先行きへの不安からランド売り要因視されそう。また、こうした政局混迷不安が国営企業への融資停止などにも波及しており、今後さらにランドの重石となる可能性も常に意識しておく可能性がありそう。

もともと、ランド/円を取引する上では、南ア国内の事情以上に為替市場全体のムードを読み解く事が不可欠だ。足元の市場の関心は米国の9月利上げの有無に集まっており、主役は米ドルになる。つまり、9月のランドは、ドル/ランドとドル/円の狭間で綱引きする場面が多くなってこよう。また、日本についても、日銀が21日の金融政策決定会合で追加緩和を行う可能性が取り沙汰されており、当日は円主導の値動きにも注意が必要だ。(石川)

(予想レンジ: 6.300~7.500円)